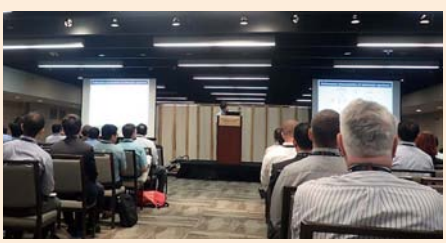
国際会議から　第50回岩の力学米国会議

富樫陽太
構造物技術研究部
トンネル研究室
研究員

米国岩の力学学会（American rock mechanics association）が主催する岩の力学米国会議（US Rock mechanics/Geomechanics Symposium）は，地盤工学や岩盤工学に係る気鋭の研究者が集う大規模な国際会議です。当会議は毎年米国内で催されており（隔年でサンフランシスコ開催），50周年の節目にあたる今年はヒューストンで開かれました。アップタウン地区のウェスティンホテルで開催された今回の参加者は716名で，採択された論文の総数は398件でした。

さて，筆者は地盤調査のセッションに参加し，山岳トンネルの地山性状の調査に関する研究発表を行いました。当セッションのほかの研究発表のなかには，日本の研究者がこれまでに取り組んできた内容も多く含まれており，地盤調査における日本の研究レベルの高さを改めて実感しました。中には，岩盤力学の権威であるカリフォルニア州立大学バークレー校のRichard E Goodman教授をはじめとした基調講演が5件あり，学問的な歴史背景から最新の研究成果に至るまでさまざまな価値ある学術発表をより深く聴くことができ大変参考になりました。また，数多くあったトンネル工学や岩盤工学に関わる研究発表から最新の知見を得ることができ，大変有意義な国際会議参加となりました。



筆者の発表の様子

会場周辺の様子

正式名称：50th US Rock mechanics / Geomechanics Symposium
開 催 国：アメリカ合衆国（ヒューストン）
期　　間：2016/6/25－30
主　　催：American Rock Mechanics Association
開催頻度：年1回
次回開催予定：2017年6月
アメリカ合衆国（サンフランシスコ）
ホームページURL：http://armasymposium.org/

国際会議から　第13回日米先端工学シンポジウム

日米先端工学シンポジウムは，招待を受けた日米両国の若手研究者（30～45歳程度）約30名ずつ計約60名が一堂に会し，3日間にわたり最先端の工学分野について発表・討議を行う会議です。全ての発表・討議に全参加者が出席する異分野交流の場（Cross-field，Cross-position）であることや，食事やウォーキングツアーを通して自由活発な討議が促されるなど，学会などが主催する通常のシンポジウムに比べて異色の内容で構成されています。今回は3Dプリンター，ビッグデータ，アーバンモビリティー，ナノテクノロジーがテーマでしたが，参加者のフィールドは土木，機械，情報，生物，化学など本当に多岐にわたっていました。

筆者は，高頻度・高速・定時運行を実現する日本の鉄道橋りょうに関わる課題や研究を紹介しました。また，その後のさまざまな分野の方との議論のなかで，たとえば材料や形状をオーダーメイドで製作することで，鉄道インフラを速やかに建設・修復できる可能性などをイメージできたことが収穫でした。

会場はロサンゼルス空港から1時間ほどの距離ですが，激しい渋滞により到着が大幅に遅れることがありました。諸事情はともかく，高速鉄道導入の余地は十分あるように，バスの中で参加者と話していました。

渡辺健
構造物技術研究部
コンクリート構造研究室
主任研究員

発表の様子

正式名称：日米先端工学シンポジウム（Japan-America Frontiers of Engineering Symposium）
開 催 国：アメリカ合衆国（カリフォルニア州アーバイン市）
期　　間：2016/6/16－18
主　　催：全米工学アカデミー，日本工学アカデミー
開催頻度：2年に1回
次回開催予定：2018年　日本（未定）
ホームページURL：https://www.naefrontiers.org/

会場の様子

参加者との交流